



合羽刷り本
かっぱずほん
挿絵の上に、色を
塗る部分を作りぬ
いた型紙を置き、
筆や刷毛でその部
分を塗って色を付
けた版本。



畳み物
たたみもの
形状としては一枚
であるが、比較的
大きく、最初から
畳んで収納するこ
とを前提に作られ
たもの。



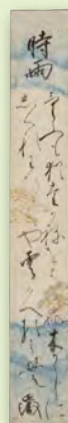
折本
おりほん
紙を横に貼り
継ぎ等間隔で
山折りと谷折
りを交互に作
って折り畳ん
だもの。

和書の さまざま

国文学研究資料館 通常展示

和書すなわち日本の古典籍は、千二百年以上
に及ぶ長い歴史を持ち、その種類の多様
さと現存する点数の多さは世界的にも稀です。
国文学研究資料館では、和書のさまざまな
姿や特色を紹介するため、通常展示「和書
のさまざま」を毎年行っています。本冊子は、
その展示内容の概要を収録したものとして作
成しました。ささやかながら、和書の豊かな
世界への手引きとなることを願っています。

- *本冊子の掲載資料はすべて国文学研究資料館所蔵です。
- *項目番号は実際の展示と一致しますが、紙面の都合で一部
の項目を割愛したため、番号が飛んでいる箇所があります。
- *本冊子の掲載資料が実際に展示されているとは限りません。



短冊
たんざく
和歌や連歌・俳諧
の発句を書くた
めの細長い紙。

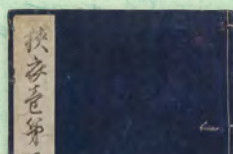


本文
ほんぶん
著作の中心部分。
文字のほか、絵を含
むこともあり、時に
は絵図だけから成
ることもある。

金欄表紙
きんらんひょうし
表面に金欄を張った表紙。



刷り題箋
すだてせん
題箋のうち、文
字が印刷された
ものを刷り題箋
と言う。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

和書の形態と素材

このセクションでは、〈物〉としての和書を考えるという観点から、和書が何を素材にしてどのように作られているかについて解説します。

【1】和書の装訂

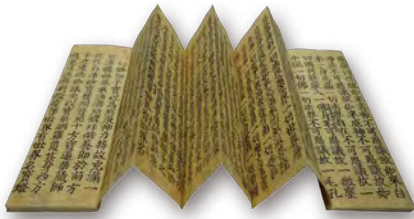
装訂とは、紙をどのように使って一つの本を作るかということで、主なものに以下の各種があります。

巻子本
かんすぼん

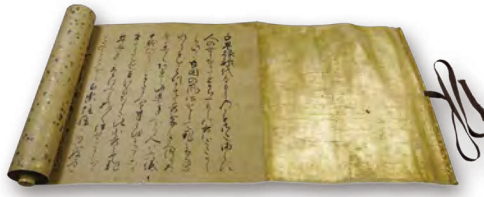
紙を横に貼り継ぎ、左端に付けた軸を中心に丸く巻いたもの。右端に表紙を付けて全体をくるむ。

折本
おりほん

紙を横に貼り継ぎ、等間隔で山折りと谷折りを交互に作って折り畳んだもの。



立川普濟寺版 大方広仏華嚴經



宗安小歌集



裏表紙

表紙

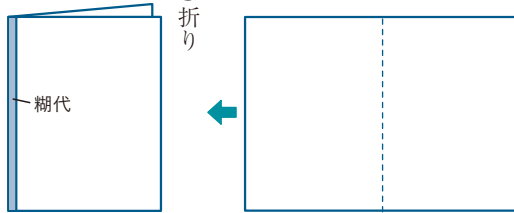


表紙

粘葉装
でっしょうそう

紙を二つに折り、外側の、折り目の脇を糊代として貼り重ねたもの。

二つ折り



糊代

外側の、折り目の脇に糊を付けて貼り合わせる

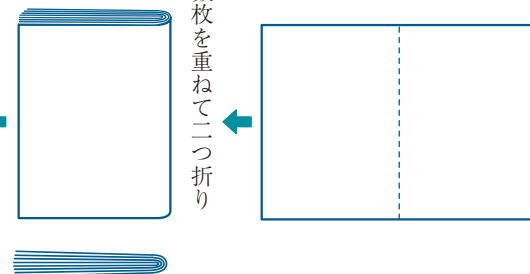


疏解文（疏抄一）

列帖装
れっしょうそう

紙を複数枚重ねて二つ折りにしたものをも二つ以上並べ、糸などで綴じたもの。

複数枚を重ねて二つ折り



右を二つ以上並べ、折り目の穴に糸などを通して綴じる

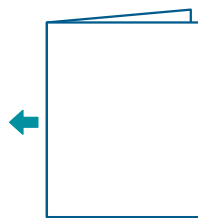


源氏小鏡

袋綴

紙を二つ折りにして重ね、折り目と反対側の端を糸や紙縫などで綴じたもの。

二つ折り



重ねて折り目と反対側の端を綴じる



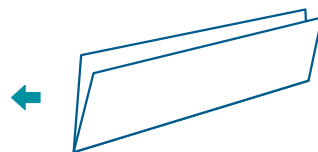
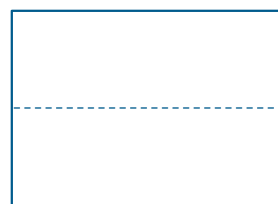
後撰和歌集



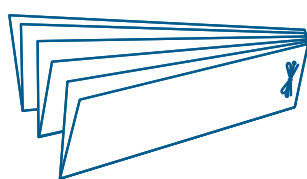
折紙綴

折紙（横長の紙を折り目が下になるように二つ折りにしたもの）またはその半截を重ね、右端を糸などで綴じたもの。

折り目を下にして二つ折り



重ねて右端を綴じる



慶長十八年八月十五日賦何路連歌

冊子本の綴じ方

冊子本を糸や紙縫などで綴じる場合、その通し方にいくつかの種類があります。

結び綴

冊子本の右端に上下各二箇所ずつ穴を開け、それぞれに紙縫や紐などを通して、結んで綴じたもの。



釈家官班記

四つ目綴

冊子本の右端に四箇所穴を開け、糸を通して綴じたもの。



善光寺道名所図会

五つ目綴

冊子本の右端に五箇所穴を開け、糸を通して綴じたもの。



善光寺道名所図会

康熙綴

四つ目綴の上下の穴と角の間に穴を開けて糸を通してしたもの。



芥子園画伝



一部拡大

【2】和書の書型

和書のうち冊子本には、一定の規格による大きさで作られているものがあります。ここでは、写本・版本それぞれの規格型の例と、規格外の例について説明します。

規格型の写本

四半本

全紙を長辺で二等分し、その一枚を二つ折りにしたものを組み合わせて縦形の冊子本としたもの。全紙の四分の一の大きさなので、四半本（四つ半本）と言う。



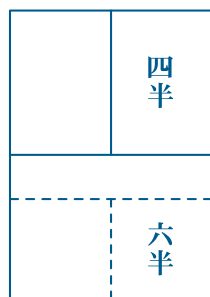
新百人一首

六半本

全紙を長辺で三等分し、その一枚を二つ折りにしたものを組み合わせて冊子本としたもの。全紙の六分の一の大きさなので、六半本（六つ半本）と言う。また、形がほぼ正方形であることから櫛形本とも呼ぶ。



俊成卿九十賀和歌



大本系の版本

大本

美濃紙の全紙を長辺で二等分し、その一枚を二つ折りにしたものを組み合わせて縦形の冊子本としたもの。



吾妻鏡

中本

大本を長辺で二等分した大きさの、縦形の本。



頭書 徒然草

美濃三つ切本

大本を長辺で三等分した大きさの、横形の本。



書籍目録 作者付大意

横中本

大本を長辺で二等分した大きさの、横形の本。



紅梅千句

半紙本系の版本

半紙本

半紙の全紙を長辺で二等分し、その一枚を二つ折りにしたものを組み合わせて縦形の冊子本としたもの。



絵本玉かつら

小本

半紙本を長辺で二等分した大きさの、縦形の本。



本朝諸社一覧

半紙三つ切本

半紙本を長辺で三等分した大きさの、横形の本。



素人庖丁

横小本

半紙本を長辺で二等分した大きさの、横形の本。



万宝全書

規格外の版本

縦長本

大本や半紙本に比べ、縦の比率が大きい（目安として横の二倍以上）冊子本。漢籍の和刻本や、中国の本（唐本）を真似た本などに見られる。



字集便覧（和字彙）

特小本

小本より小さいサイズの本。豆本・袖珍本などとも言ふ。



鳥づくし

特大本

大本より大きいサイズの本。



集古十種

【3】和書の各部位

〈物〉としての和書は、様々な部位から成り立っています。

表紙

和書において、本体部分の外側にあつてそれを覆う部分が表紙です。

金欄表紙

表面に金欄を張った表紙。



奈良絵本うつほ物語

紺地金泥表紙

紺色の紙に金泥で絵や文様を描いた表紙。



咸陽宮

丹表紙

丹色（明るい朱）の表紙のことであるが、特に江戸時代初期に例の多い、光沢のある丹色の表紙を指す。



甲陽軍鑑

栗皮色表紙

柿渋を塗り重ねて、栗の皮のような色にした紙を張った表紙。



老子虞齋口義

刷り付け表紙

合巻の表紙に錦絵を刷り出したもの。上下二冊、または上中下三冊を並べると一つの図柄になるようにされている。



北雪美談時代加々見

渋引き表紙

刷毛で柿渋を引いた紙を張った表紙。栗皮色表紙のように塗り重ねず、比較的淡い色。



装束之記

艶出し文様

藍・朱・黒などに染めた紙を張った表紙を、文様を彫った木型の上に置き、表面から文様の凸部分をこすって艶を出したもの。



一部拡大



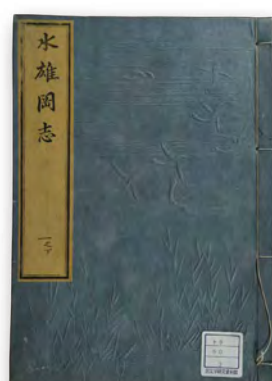
史記評林

空押し文様

藍・朱・黒などに染めた紙を張った表紙に裏から文様を彫った木型を押し付け、文様を浮き出させたもの。



一部拡大



水雄岡志

その他各部位

見返し

表紙の裏側のことで、表表紙の裏側を前見返し、裏表紙の裏側を後見返しと言う。

遊紙

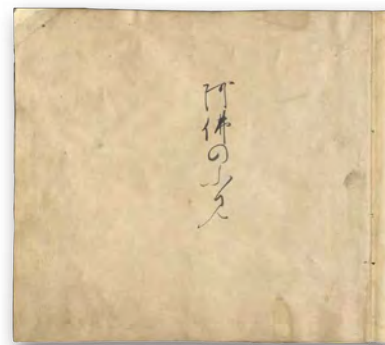
冊子本の本体部分において、前や後に、何も記載しない白紙の丁を二丁程度添えたもの。



三部抄

扉

冊子本で、本体部分の初めの方に独立に一丁を取り、書名を記したもの。



庭のをしへ (阿仏の文)

軸付紙

巻子本において、本紙の端に十分な余白がない場合など、軸を付けるための紙を貼り継ぐことがあり、軸付紙と言う。



ねんぶつ

版心

冊子本の版本において、一丁分の版の中央部分のこと。両側に縦線が引かれていることが多いので、その形状から柱とも呼ばれる。

咽

冊子本を見開きにした時の、中央線の両側の余白部分のこと。

小口

冊子本で、上・下・手前の紙の重ね目のこと。特に下小口を指すこともある。

背

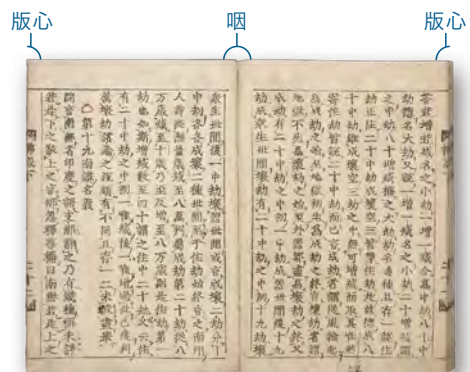
冊子本で、手前と反対側の側面。

角包み

主に袋綴の冊子本で、表紙を付ける前に綴じ代部分の上下の角を包むように貼られた、小さい布片。



群書類従



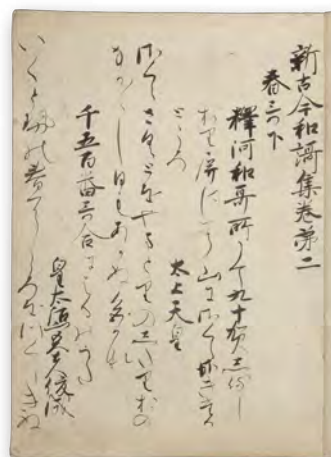
弘惑袖中策

【4】和書の料紙および附属事項

和書のうち、表紙以外の本体部分に使われている紙を料紙（本文料紙）と呼びます。写本の料紙には界（罫）が引かれることがあり、版本にも匡郭や界を持つものがあります。

鳥の子紙

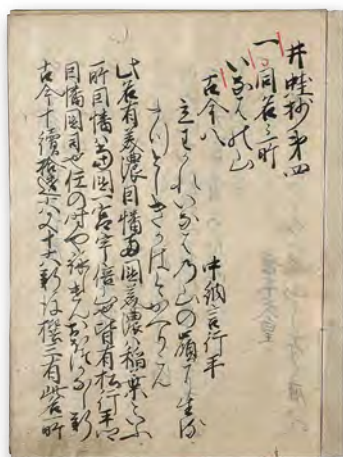
雁皮の樹皮を原料とする斐紙のうち、厚く漉いたもの。鶏の卵のような色であることから鳥の子紙と言う。楮紙に比べて表面がなめらかである。



新古今和歌集

薄様斐紙

雁皮の樹皮を原料とする斐紙のうち、薄く漉いたもの。鳥の子紙と同じく表面がなめらかで、透明感がある。



井蛙抄

楮紙

楮の樹皮を原料として作られた紙。和書の料紙として最も広く用いられる。（図版左二点）

【界・罫】

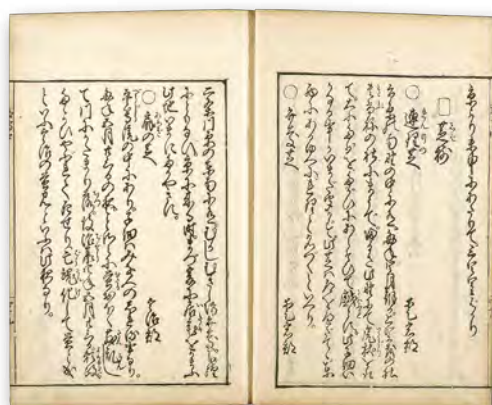
写本において、上下や行間を揃えて字を書くために引かれた線。版本にも界を持つものがある。



職原抄

【匡郭】

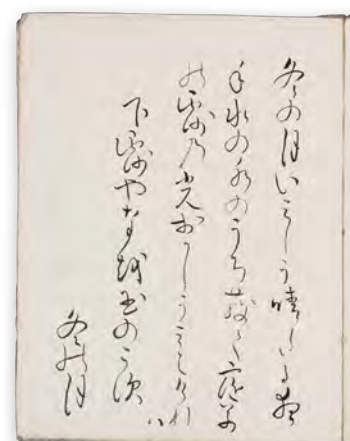
版本において、本文の周囲に引かれた枠線。



名所都鳥

間合紙

長さを襖障子の幅（約一メートル）に合わせて漉いた紙が間合紙であるが、斐紙に泥土を交ぜて漉いた泥間合紙が書物にも用いられた。



荒木田麗女句文

宿紙

反古紙を漉き返して作った紙。墨の成分によって薄墨色を呈する。



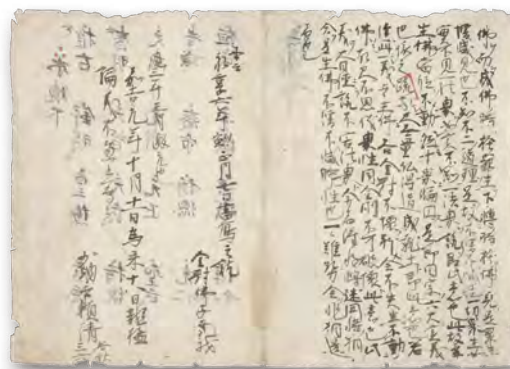
天道大福帳

紙背文書

卷子本・折本や紙を二つ折りにして使う冊子本で、既に何かが書かれていた紙を裏返して用いることがあり、その場合の元の文書を紙背文書と呼ぶ。



水鏡 ＊右の紙背



生仏二界不増不減事

〔5〕 附属品

和書は、それを保護するための袋や帙、箱などに納められることがあります。

包み紙

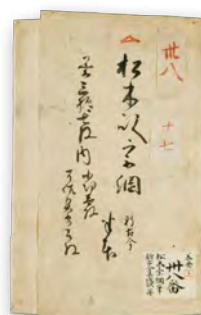
一点の本を包むほか、関連のある複数の本を一枚の紙で包んでまとめておくこともある。

袋

本を入れる筒状の紙。特に江戸時代中期以降の版本で、表面に書名・著者名・版元名などを刷った袋に入れて販売することがあった。



文鳳山水遺稿



新古今和歌集

帙

本を厚紙等でくるんで保護するもの。江戸時代までは、主に紙帙が用いられた。



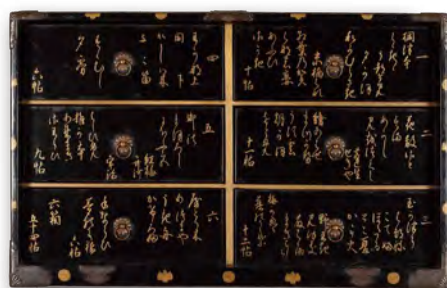
玉石童子訓

箱

桐や杉などの木箱が一般的で、素木のほか、漆を塗った塗り箱も用いられる。



源氏物語の箱



同右 ＊蓋を取って引出しの前面が見えている状態

〔6〕 版木

版本のうち整版本は、板に文字や絵などを彫った版木を用いて印刷されます。



魚貝譜



魚貝譜の版木

II

和書の構成要素

このセクションでは、和書がどのような内容から成り立っているかという観点から、和書を内容的に構成するさまざまな要素について解説します。

【2】書名

和書の多くには、書名（題記）が記載されています。それらは表紙にあるもの（外題）と、本の内部にあるもの（内題）に大別され、内題はその位置によってさらに区別されます。

打付書き外題

表紙に直接書かれた外題を、打付書き外題と言う。和書では古くは題簽を使わず、表紙に打付書きされていた。



源氏物語 あげまき

刷り題簽

題簽のうち、文字が印刷されたものを刷り題簽と言う。



狭衣物語

刷り外題

表紙に直接印刷された外題を、刷り外題と言う。丁数の少ない、簡素な版本によく用いられた。



狂歌列仙画像集続編

扉題

内題の一種で、扉にあるもの。



風俗文選

書き題簽

外題や巻冊の順序を記載するため、表紙に貼る紙片や布片が題簽で、そのうち、文字が筆で書かれたものを書き題簽と言う。



源氏物語 糸あはせ

絵題簽

題簽のうち、書名のほかにその本の内容に関わる絵が描かれたものを絵題簽と言う。江戸時代中期以降、草双紙類に多用された。



鏡山誉仇討

見返し題

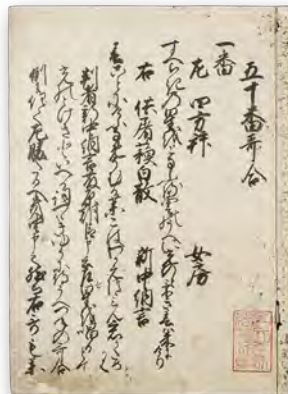
内題の一種で、前見返しにあるもの。



懷風藻

巻首題

内題の一種で、本文の冒頭にあるもの。狭義では、この巻首題を内題と呼ぶことも多い。



年中行事歌合

【4】本文・目録・著作情報

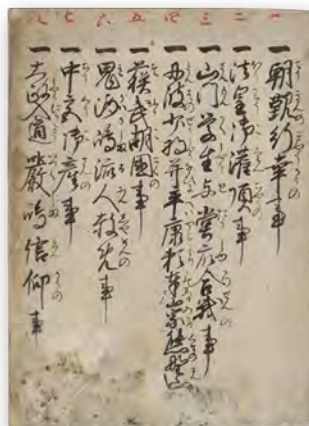
本文は、書物の内容構成の中心となる部分です。
本文に先立って目録が置かれることがあり、また本文の前や後などに著者名ほか著作に関する情報が記されることがあります。

目録

その著作の章節名や項目名等を列記したもの。



*左頁は本文の冒頭



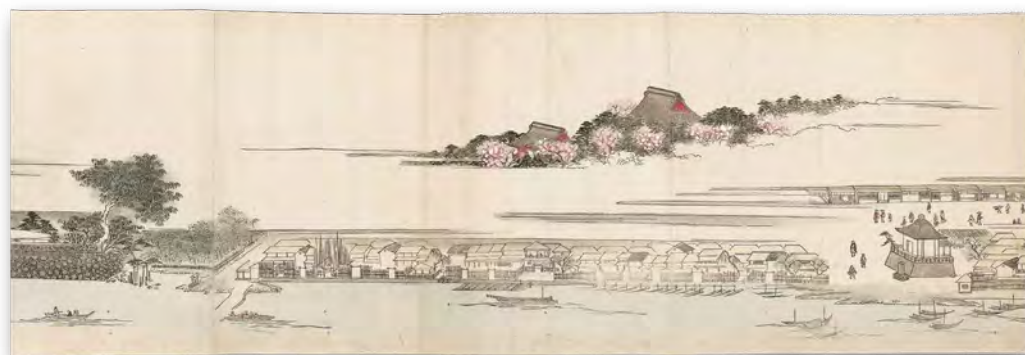
平家物語

本文

著作の中心部分。文字のほか、絵を含むこともあり、時には絵図だけから成ることもある。



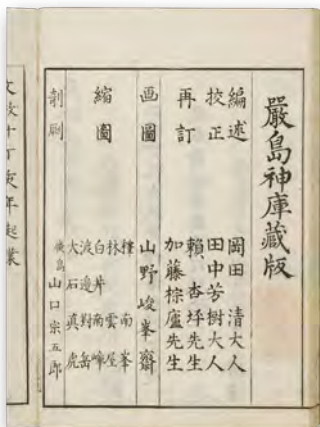
扇の草紙



隅田川兩岸一覽 *題字と漢文の跋のほかは絵のみ

著作情報

巻首題の後（本文の直前）や本文の後、あるいは前見返し・題簽などにある、著者名ほか著作の成立に関する記事。



畿島図会



雑談集



明衡往来（雲州消息）

【5】奥書・識語

写本において、末尾に書写の年月日や書写者の名などを記したものが奥書で、写本に特有のものです。識語は、所蔵者などがその本や著作について書き入れた言葉で、写本にも版本にもあります。

奥書

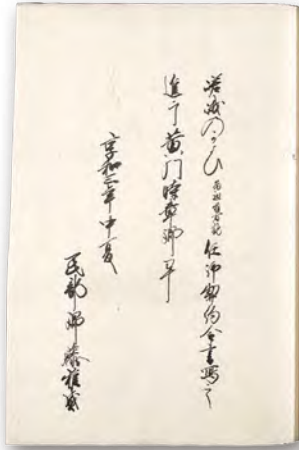
写本を書写した人が、年月日や名前、書写の事情などを末尾に記したものを。書写に用いた本（底本・親本）にあったものを本奥書、その本の書写に当たって書かれたものを書写奥書と言う。

本奥書

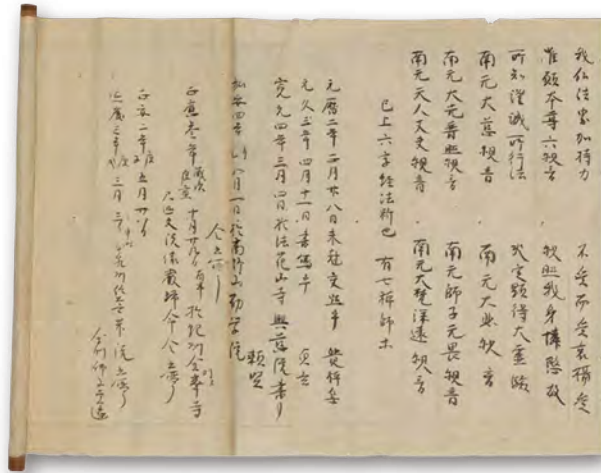
既存の写本を転写して新しい写本が作られる際、底本（親本）の奥書を転記することが多い。和書では底本のことを「本」と言うので、底本にあった奥書の意味で本奥書と言う。

識語

本の所蔵者などが、その本や著作について書き入れた言葉。奥書と同様本の末尾に書かれるほか、冒頭部や途中の余白に書かれることもある。



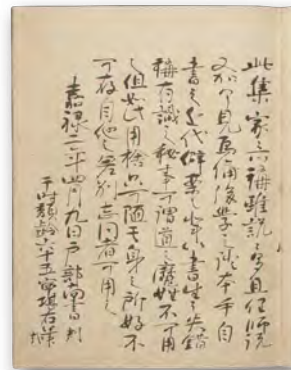
嵯峨のかよひ路



覚禅抄 六字明王経法



行類抄 *長祿元年の奥書は本奥書



古今和歌集



三種歌合



源氏物語新古今和歌集ほか抜書

【6】刊記・広告

版本において、刊行の年月日や版元名などを記載したものが刊記です。末尾のほか、前見返しなどにあることもあります。広告は、版元による出版物の宣伝です。

本体部分末尾の刊記

刊記のうち、本体部分の末尾に記載されているもの。



京童

後見返しの刊記

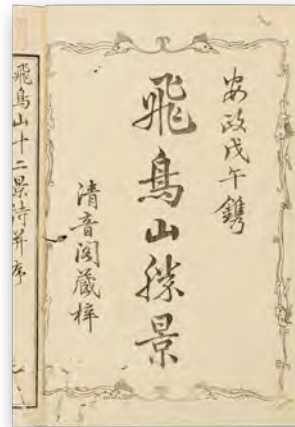
冊子本の後見返しに記載されている刊記。



俳家奇人談

前見返しの刊記

冊子本の前見返しに記載されている刊記で、版元名と年月（またはその一方）だけの簡潔な形が普通。



飛鳥山十二景詩歌并碑

広告

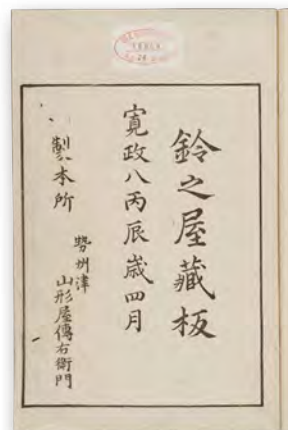
版元や販売した書店による、既刊や近刊の出版物の宣伝。



絵本以呂波歌

蔵版記・蔵版印

広義の刊記の一種で、蔵版者（出版権を持つ者）を記したもの。印記になっているものは、蔵版印と言う。



馭戒慨言



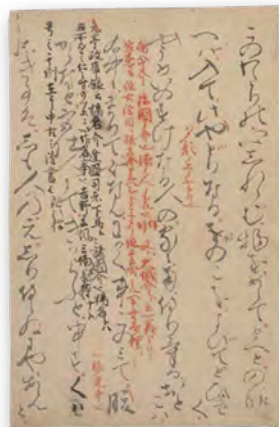
毛詩補伝 *左頁は刊記

【7】書き入れ・付箋

読者が、注記や覚書などを本に直接書き込んだり、別紙に書いて貼り付ける
 ことがあり、前者を書き入れ、後者を付箋または貼り紙と言います。

書き入れ

漢文に訓点を付けたたり、行間や欄外などに
 注釈・補記・覚書などを書き込んだもの。



源氏物語（伊予切）

裏書

卷子本・折本などにおいて、裏面（紙背）
 に記入された注釈や補記の類。



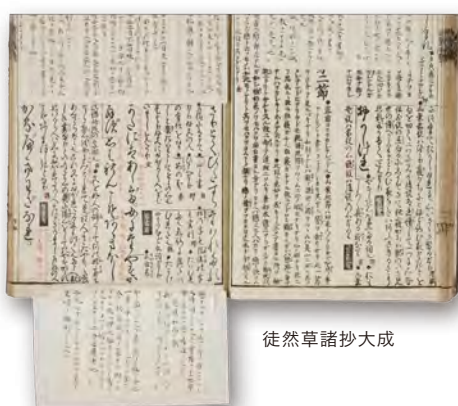
表白御草

付箋・貼り紙

注釈や補記などを、直接本に
 書くのではなく、別の紙片に
 書いて貼り付けたもの。



今鏡



徒然草諸抄大成

【8】所蔵署名・蔵書印

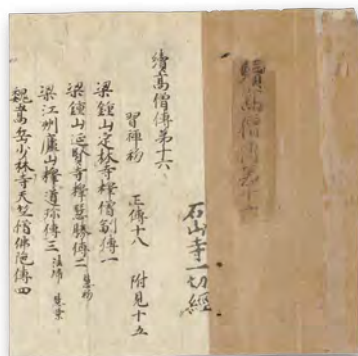
和書には、所蔵者が印を捺したり、署名を記すことが
 しばしばあります。

所蔵署名

所蔵者が、その
 所蔵であることを
 を示すために本
 に記した署名。

蔵書印

所蔵者が、その
 所蔵であることを
 を示すために本
 に捺した印。



続高僧伝 *石山寺の蔵書印



和点類集



大鏡 *田安家の蔵書印



延文百首 *脇坂安元の蔵書印

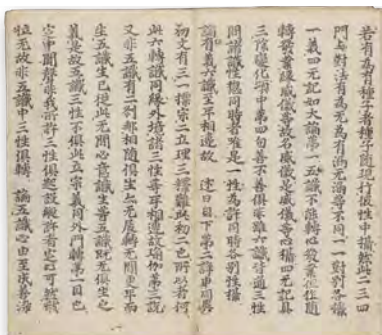
このセクションでは、千二百年以上の歴史を持つ和書の中から、各時代の写本や版本、特色のある本を選び、あわせて書物の周辺に位置する資料も紹介します。

(1-2) 各時代の版本

日本の版本は、平安時代後半以降その事例が増えますが、遺品が多く残るのは鎌倉時代からです。

春日版

平安時代末期頃から奈良の興福寺で出版された本。しばしば刊記に春日の神への信仰が表明され、春日版と通称される。



成唯識論述記

高野版

鎌倉時代中期から高野山で出版された本。冊子本は枯葉装に装訂されることが特色。



大毘盧遮那成佛神變加持經

五山版

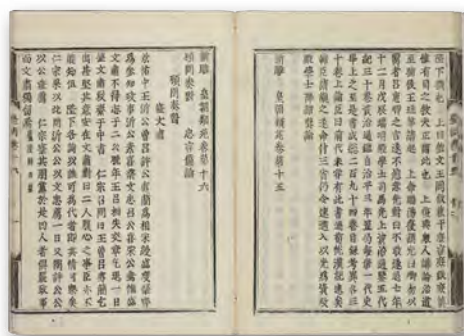
鎌倉時代中期から、京都と鎌倉の五山をはじめとする禅宗寺院で出版された本。



千字文註

勅版

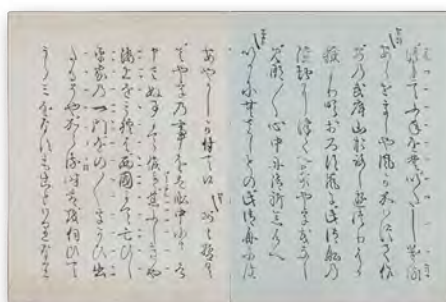
天皇が命じて出版させた本。後陽成天皇による文禄勅版と慶長勅版、後水尾天皇による元和勅版がある。



皇朝類苑 *元和勅版

嵯峨本

本阿弥光悦の創始した光悦流の書体を持つ一群の版本は、嵯峨の角倉素庵の資金援助で出版されたと言われ、嵯峨本と通称されている。



船弁慶

木活字本

江戸時代後期から明治時代にかけて作られた、木製の活字で印刷した本。江戸初期の古活字本に対し、平仮名を使用せず漢字と片仮名のみであることが特色。



南蛮寺興廃記

(2-1) 絵入り写本

写本の中には、美しく彩色された多数の絵を持つものがあります。本文とともに、絵を鑑賞することを目的に作られていると考えられます。

絵巻

物語や説話等を題材に、詞書と絵を交互に貼り継いで巻子本としたもの。平安時代以降多数製作された。



勸修寺八幡宮縁起

奈良絵本

室町時代末期から江戸時代前期にかけて多数製作された、主に物語を題材とした冊子体の絵本。主に列帖装の縦形本と袋綴の横形本がある。



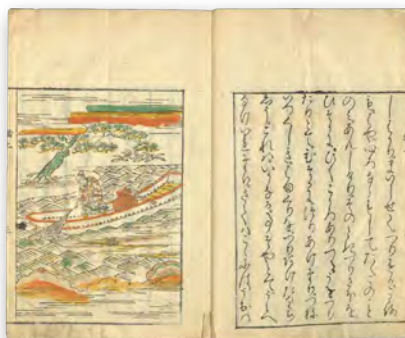
住吉物語

(2-2) 絵入り版本

版本にも、絵を伴うものが少なくありません。ここでは、墨で刷った上に筆を用いて彩色を施した本と、色版を用いて多色刷りをした本の例を示します。

丹緑本

江戸時代初期に刊行された物語などの版本で、挿絵に筆で丹・緑・黄の色を付けたもの。



蛤の草子

合羽刷り本

挿絵の上に、色を塗る部分をくりぬいた型紙を置き、筆や刷毛でその部分を塗って色を付けた版本。



名婦伝

多色刷り本

複数の色版を用いて絵を印刷した本。



百さへぶり

【4】書物以外の資料

形態的に書物としては扱われませんが、書物に近接した所に位置する一群の資料があります。

古筆切

古写本の一部を、鑑賞などのために切り取ったもの。



菅原道真集断簡

短冊

和歌や連歌・俳諧の発句を書くための、細長い紙。



正徹短冊

掛軸

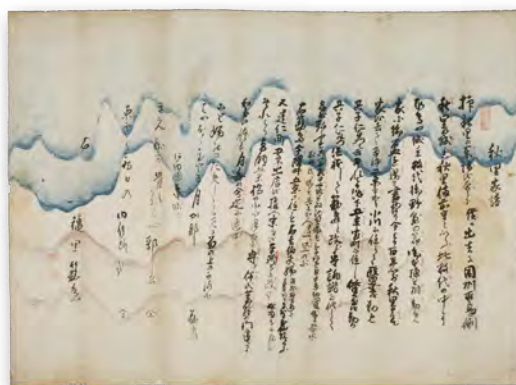
当初は、仏画を壁などに掛けて礼拝するために考案されたもので、後には絵や書などを掛けて鑑賞するためにも用いられた。



春日懐紙

一枚物

書状・文書や小型の地図など、一紙程度の、比較的小さいものを言う。



秋里家譜

畳み物

形状としては一枚であるが、比較的大きく、最初から畳んで収納することを前提に作られたもの。



富士見十三州輿地全圖 *右上は畳んだ状態の表紙

展示室のご案内

●入場無料

●開室時間

午前10時～午後4時30分
(入室は午後4時まで)

●場 所

国文学研究資料館1階

ギャラリートーク

当館教員が展示の説明を行います。

※展示会期、休室日、ギャラリートークの日程については、決まり次第、掲示・当館WEBページにてお知らせします。

発行日 平成30(2018)年12月25日

編 集 国文学研究資料館企画広報室

©人間文化研究機構国文学研究資料館



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

TEL 050-5533-2910 <https://www.nijl.ac.jp>